

皆さんは、同和問題は昔のこと、自分には関係ないことと思っ
ていませんか？ しかし、今も差別は存在し、ネット上には悪
意や偏見に満ちた情報が拡散されています。

少しでも同和問題を身近な問題として考えてもらえたら
…。そんな思いから生まれたのが、被差別部落にかかわる人
や文化、仕事などさまざまな情報発信を目的に活動するグルー
プ「BRAKUHERITAGE」です。ヘリテージとは遺産
や伝統という意味。主なメンバーは、地域も職業も立場もさ
まざまな8人です。被差別部落出身者もいれば、そうでない人
もいます。

そのメンバーの一人、東京都の上川多美さんは、被差別部落
出身の両親から部落差別の話を聞いて育ちました。ですが、友
人たちは「部落」と聞いても意味が分からず首をかしげるば
かり。親戚が受けた結婚差別の話をして、「被書妄想じゃな
い？」と相手にされません。自分にとって大きな問題だと考え
ていたことが、あたかもないことになっている。周りの人たち
が、被差別部落について知らないことで、上川さんは自分の存
在を否定されているような気持ちでしたと言います。

子どもが生まれたとき、上川さんは「この子にはこんな思
いをさせたくない」と考え、悩みました。ネットにあふれる誤っ

た情報に対して、正しい情報を発信しなければ。でも、部落
差別を知らない人、過去のことと思っている人たちに、どう伝
えていけばよいのか。そうして思いついたのが、「われわれ」
ではなく「わたし」を主語にした発信です。「今ここに暮らし
ているこんな『わたし』のこと」として、一人一人の声を提
示することで、差別のリアリティーを伝えることができるので
はないか。同世代の仲間に、そう呼び掛けてBRAKUHE
RITAGEの活動が始まりました。

上川さんは、声を上げたことで嫌がらせを受けることもあ
ります。ですが、同時に多くの人と出会い、人生が豊かになっ
たと言います。BRAKUHERITAGEのインターネット
サイトは、一人一人の悩みや迷い、悲しみ、そして喜びがあふ
れています。

では、また。

